

No.438

## セアカゴケグモ

1995年の11月、日本じゅうが毒グモで大騒ぎとなったことを覚えていますか？  
大阪府内で、セアカゴケグモという日本には生息していなかった毒グモが発見されたのです。セアカゴケグモのメスの体の大きさは8~10mm、オスは4~5mmで、メスはほとんど真っ黒、球形の腹部の中央に赤色の帯状紋が目立ちます。オスの腹部は細長く、黒か濃褐色で細い3本の白色紋があります。巣は不規則なアミ状で、石の間やくぼみ、側溝、ベンチの下、建物の隅などに作られます。熱帯・亜熱帯に広く分布し、船の荷物にまぎれて入ってきたものと考えられています。

当初は、近畿地方、東海地方、関東地方の港湾付近で見つかっていましたが、現在では確認された都府県は、南は沖縄から北は岩手まで30を超えています。

北陸地方では、昨年(2013年)まで生息の確認は無かったのですが、今年(2014年)7月下旬に金沢市と福井市の市街地で発見されました。北陸のような冬寒いところでは、越冬はできないのではないかとおわれていましたが、最近では暖房が行き届いていますし、屋外でも、清涼飲料水の自動販売機のように年中熱を出している機器も多数ありますので、そうでも無いのかもしれませんが、また、人や物の移動のはげしい現在では、分布の拡大は止めることは難しいでしょう。富山県では、今のところ発見の報告はありませんが、注意する必要があります。

かまれて危険なのはメスで、オスには毒は無いかあってもごく弱く危険はないようです。セアカゴケグモにかまると、はじめは針で刺されたような痛みがあり、ゆっくりと痛みは全身に広がって強くなり、汗がでる、血圧が上がる、しびれる、呼吸困難などの症状があるとのこと。積極的な攻撃性は無いので、素手で触らなければかまれる危険はありません。

セアカゴケグモは、小さいですが特徴のはっきりしたクモです。日頃から近辺のクモに注意しておきましょう。あやしいクモがいたならば、すぐに保健所に連絡しましょう。外来の、人間が分布を広めた毒グモですから、見つけた場合はできるだけ早く退治しておく必要があるでしょう。(根来 尚)



セアカゴケグモのメス(上:腹面、下:背面)